

「富山での出会い」

新居 千秋 さん



プロフィール

新居 千秋(あらい ちあき)  
株式会社 新居千秋都市建築設計  
代表取締役

1948年 島根県生まれ  
1971年 武蔵工業大学工学部建築学科卒業  
(現 東京都市大学)  
1973年 ペンシルベニア大学大学院芸術学  
部建築学科修士  
1973年 ルイス・I. カーン建築事務所  
1974年 G.L.C(ロンドン市チームズミード都市  
計画特別局)  
1977-2007年 武蔵工業大学講師  
1979-2010年 東京理科大学理工学部講師  
1980年 新居千秋都市建築設計設立  
1998年 ペンシルベニア大学客員教授  
2008-2012年 東京都市大学教授(旧 武蔵  
工業大学)  
2010-2011年 東京工業大学非常勤講師  
2013-2015年 シンガポール国立大学外部卒  
業判定員  
2013年 - 東京都市大学客員教授



黒部市国際文化センターコラーレ

私は富山県人ではないが、生まれた県より富山県の方が大事にしてくれる。最初は黒部で40歳以下の建築家を集めたデザイン会議に選ばれて富山に来た。当時の市長の荻野さんがその会議を見ていて、組織事務所よりアトリエ派が良いと思つたらしい。それから数年経って、黒部の国際文化館のコンペが行われた。コンペの最終にはアトリエ派の人達を選ばれていた。審査員の池原先生から「君の考えは良く分かるが、本当にそんなにうまく行くのか」と聞かれた時、「出来るかどうか分かりませんが、ベストを尽くすだけです」と言った。内心これで終わったと思ひ、どこにも寄らずに東京に帰った。その数日後に受かったと連絡があった時にはびつくりした。これが日本のプロポーザルコンペの最初であり、日本建築センターが主体であった。

元々のプログラムの内容が多だったので、市政40年のお祝いを1年延期して、ワーショップをやって皆の意見を聞いて本当に街が必要なものを作って41周年をお祝いしましょうと提案した。市長に頼んで、役所の人達にインタビューをして、音楽や絵の好きな人達を選んで下水道局の石川さんや、学校の担当の人を文化会館の担当に

してもらった。現在事務局長の鮫澤さんは給料が低くなるのを奥さんと話して、英語の教師を辞めて参加してくれた。武藤先生はキーボードオーケストラを、亀谷さんは劇団を担当し、活動を始めた。ワーショップで、3つの劇場を作るのを1つにして、能、狂言のための舞台を作ろうということになり、それなら野村万作さんに会いに行こうと、7回くらいご自宅を訪ねて、萬齋さんもやってくれることになった。後年、野村万作さんの文章に「コラーレの野外能舞台は、中尊寺の舞台とともに、私の最も好きな場です。」と書いていただいた時は感動した。仕事をしていくうちに、YKKの吉田さんが私のイギリス時代の友人と慶応で同期で仲が良かったことも分かり、親しくなった。

以前、大分出会ったアドバイザーの政所さんと十数年経って世話人会で再会し、富山に住んでいると聞いた時は驚いた。早稲田の中川先生、尾島先生達とも親しくなった。異なった場所から来た人が出て、その土地に愛着を持つのが富山だと思つた。

その後、数年経って中沖知事に呼ばれた。とても緊張感のある人で、最初の10分、15分は何も話さない、興味がないのかと思つと、ボンボン話し出す。30分の予定がいつも2時間を越えて話し込む。外に出ると各課の人達が次の資料を持って並んでいた。私達は農水省と富山県と合同の「砺波散居村プロジェクト(農村の創造的保全)」のコンペに参加した。建築とは少し違つた総研というところとチームを組むというものだった。私達が親で、色々な創意工夫を発想し、総研がおさえる方が、今まで分析しがちな総研、それを組織事務所がやっても、いつも同じ結果になると主張して、勝つた。

高岡高校出身の東大生がアルバイトに來たので、県知事にまだ所員ではないが、この仕事を是非やらせてみたいので、会つてくれますかと聞いたら、承諾して下さい、彼の理想を知事の前で語つた。中沖さんのように学生の意見を1時間くらい聞いてくれたのは、これが今のところ最初で最後だ。砺波の町や、村々を最低2〜3か月かけて調査した。色々な大学の教授にヒヤリングし、東工大の梅干野先生が良いと思つたので、仲間になつてもらつた。人工衛星からセンサーで農地の水温を調べて、4℃(ワラー)にして9台分、農地は温度が低いと

分つた。農業の大切さ、自然の力、山と日本海、散居村の意義というものを学んだ。ある日、部長に呼ばれて、会いに行くと若い人がいた。それが中井徳太郎さんで、私がおもしろいと聞いたので会つてみようと思つたといふことだった。またこれも偶然なのだが、彼はその年だけ富山にいた。彼やニッル、松本零土や色々な人とNPO環・日本海というものを作って、日本海学という学問の一部に加えてもらつたり、また彼が東大の先生をやっていた時、2〜3回東大で講義を受け持つたりした。彼が環境省の事務次官になつたのは驚いた。

石井県知事はすごく慎重で、中沖さんとはまた違つた話しづらさがある。県が抱えていた財政の問題や色々なことを解決した。20年近くに渡つてもくもくと理想を追つていく。富山県出身でない者の意見まで聞いて、粘り強くやり遂げられた。

最後に食だが、富山の食材は何をとつてもつまみ。特に氷見うどんのこしの強さとのど越しは日本でも一番だと思つている。もう25年くらい注文して食べている。

富山の思い出は尽きない。